

総合的な学習の時間 「共に生きよう」

大井町立上大井小学校



単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、一人ひとりの違いを理解し、互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 皆が共に幸せに暮らすことができるよう、同じ社会に生きる人間として、互いに助け合い、支え合って生きることの大切さを学び、自分ができることを考え実践する。

(1) 実施時期 11月～1月

(2) 対象（学年等・人数） 第4学年 46名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 2名 社会福祉協議会 3名 点字ボランティア 1名
日本盲導犬協会 2名 手話サークル 3名

(4) 実施内容

- ① 社会福祉協議会の方のお話
福祉についての説明を聞き、視覚障がい、聴覚障がい、高齢者等について理解する。
- ② 福祉について課題を決め、調べ学習を行う。
- ③ 点字教室... 点字についての説明を聞き、点字を読む、打つ体験をする。
- ④ 手話教室... 手話によるあいさつ、指文字による自己紹介、手話による友だちとの会話に取り組む。
- ⑤ 盲導犬教室... 視覚障がいの方のお話を聞き、盲導犬との関わりの様子を見学する。
- ⑥ 手話・点字・車いす・高齢者体験... ブースに分かれ、取り組みたい活動場所へ行きそれぞれを体験する。

(5) 成果

- 点字や手話に興味をもつことができ、授業後に自主的に社会福祉協議会を訪ね、質問をする児童もいた。
- 学習発表会では、手話を取り入れた合唱を全校児童や保護者、地域の方にむけて発表でき、達成感を味わうことができた。
- 手話を身近に感じ、あいさつで手話を使うなど、日常的に取り組む児童が増えた。

(6) その他

福祉をテーマにした長期間にわたる総合的な学習の時間の活動内容の中に、手話に関する取組を位置づけた。そのため、様々な障がいのある人の思いに寄り添い、その方たちの支えとなる大切なものの一つとして、手話を捉えることができた。学習発表会の手話での合唱からは、単なる体験活動として手話に取り組んだのではなく、聴覚障がいの方に思いを伝えたいという一人ひとりの願いが感じられ、聞く人に感動を与えるステージとなった。